

議 長
確認印

経済常任委員会会議録

1 日 時	開会 令和5年2月6日 10:00 閉会 令和5年2月6日 11:30
2 場 所	防災センター 3階 会議室
3 出席委員	七宮広樹、鈴木元久、鈴木 茂、吉田広明、金澤太郎、割貝寿一
4 欠席委員	なし
5 出席要求者 (説明員)	まち振興課長、商工観光係長 ※参考人：埴町商工会事務局長、経営指導員2名
6 職務出席者	議会事務局長、書記
7 付議事件	第1 商工振興活動事業費補助事業について
8 議事の経過	<p>鈴木元久副委員長開会</p> <p>七宮広樹委員長あいさつ</p> <p>第1 商工振興活動事業費補助事業について</p> <p>委員長：説明を求める。</p> <p>(まち振興課長が資料に基づき説明)</p> <p>委員長：商工会事務局長に、令和4年5月13日に行われた町との意見交換会後の動きについて説明を求める。</p> <p>商工会事務局長：令和5年度の総代会での組織再編に向けた話し合いを令和3年から進めている。現在の4部会(商業・工業・サービス業・建設業)を2部会(商業・工業)にする予定。役員を25名から17名に削減する。5年後・10年後を見据え計画している。事業内容はまだはっきり具現化していないため、早急に計画したい。令和3年度の決算だが、町補助金は地域振興事業、経営改善事業に充てている。管理費や人件費は、県補助金や自己財源で賄っている。</p> <p>委員長：商工会への補助金については、代表監査委員から再三に渡り指摘をされている。各委員から質疑あるか。</p> <p>吉田委員：経費削減のおおよその見込額は。</p> <p>商工会事務局長：役員25名を17名にすることで年間15万円の削減。その他、会議費・人件費等を含めると20~30万円くらい。</p> <p>吉田委員：組織再編はよいことだが、今の説明の額ではどうしようもない。経費を削減することが決して良いことだとは思わない。取り組むべき事業の中身で成果を上げればよい。インバウンドや若手のビジネスを呼び込むような取り組み・企画をしているのか。</p> <p>商工会事務局長：インバウンド関係は、町だけでは難しい面があるため、郡内4町村での取り組みをしたいと思い話し合いをしている。</p> <p>吉田委員：すでに取り組んでいるという即効性がないと、他に負けてしまう。どのようなスケジュールになっているのか。</p> <p>商工会事務局長：正副会長会や理事会での話し合いとなるため、若干遅れはあるかもしれない。事業の実施に向けて考えたい。</p>

吉田委員：補助金・交付金の決定～交付までの期間を短くすることで、即効性が出るのではないかと。それと、若手の起業者の育成が必要。

商工会事務局長：4町村広域事業の中で新規創業者を募って、講習会・セミナーを開催している。その後、参加者への個別相談会をしているが開業までには至っていない。

経営指導員：後継者という面で、青年部でセミナーを行っている。また、青年部に限らず、事業主が高齢化していることから後継者がいないところがあるため、商工会としても県の事業承継支援センターと連携しながら取り組んでいる。

鈴木茂委員：青年部・女性部の活動について、領収書は全てもらって確認しているのか。

経営指導員：青年部の最も大きな支出は流灯花火大会の経費。また、今年度は秋祭り、例年だと産業であったがその経費が主である。その他だと研修会などである。コロナ禍になってからは、青年部のポータルサイトの開設、サーバーの維持費などで年間数10万円。

鈴木茂委員：女性部ではどのような支出をしているのか。

経営指導員：花いっぱい運動、教養セミナー、アレンジフラワー教室、女性部会報の発行、ゴミひろい活動などで、領収書は全て提出いただき使途を明らかにしている。

鈴木茂委員：町では、令和5年度は事業に対して補助金を支出するというだけでよいのか。

まち振興課長：まずは事業計画を提出いただき、町として商工業振興のために妥当かどうかを判断する。単年で終わるのではなく、3年後・5年後を見据えた事業なのかを確認する。人件費は出さないということではなく、事業に係る人件費は支出する。

鈴木茂委員：商工会側では、町からの指針についてどの程度まで対応が進んでいるのか。

商工会事務局長：ある程度の事業計画は作成した。正副会長・部会長に確認後、町に提出する。

鈴木茂委員：各部会員は町からの内容を承知しているのか。

商工会事務局長：部会長・役員には話ししているが、末端の会員までには伝わっていない。

鈴木茂委員：それではいけない。全会員に周知し、商工会全体でこの問題に対応すべきだと思うが、どのように考えているか。

商工会事務局長：周知が遅れていることは考えていかなければならない。

まち振興課長：末端からの声を事業に反映すべきと考える。

金澤委員：発信力不足である。会員が所属している部会が何をしているか分からない場合がある。

部会ごとの総会を開いてはどうか。令和4年度の事業計画書の中で、物産協会や道の駅とのタイアップによる都市交流事業の強化とあるが、商工会ではどういった連携強化をしているのか。

経営指導員：商工会では、物産協会から委託を受け事務処理等をしている。物産協会員も減少傾向にある。また、高齢化していることもあり、都市交流等のイベントには体力等の問題により参加できないというのがある。ネットを活用した販売などを考えていく。

金澤委員：道の駅と物産協会の間を商工会が取り持った上で、商工会も率先して都市交流事業に参画していく姿勢を見せていければ活性化されるのではないかと。

割貝委員：何でも削るのではなく、商工会事業継続維持のためには、ある程度の補助は今までもおり必要と感じる。失敗してもいいから、まずは新たな取り組みをしてほしい。

副委員長：組織再編で理事20名から12名とあるが、削減する8名の所属部署は決まっているのか。

商工会事務局長：4つの部会を2つにすることで削減する。

委員長：町からの補助金が減らされるのではという話が先行してしまっている。末端の会員まで町の意向が伝わっていない。空き店舗対策も視野に入れてやるべき。商工会のビジョンあるか。

商工会事務局長：今後の町補助金交付については、各種役員会の中で話をしている。伝わっていないことについては反省している。空き店舗について考えているが、問題なのはほとんどが住宅併用の店舗であること。週末だけでも、店舗のみ使用できるかなど検討している。

委員長：商工会としてのイメージ・ビジョンは。

商工会事務局長：商業の会員に話をすると、あと3年・5年でやめるということを聞く。後継者がいるところは、ある程度のバックアップをしできるだけ長く経営をしていただきたいと思っている。

委員長：積極的に取り組みを行っていただきたい。

鈴木茂委員：商工会として発信力弱い。最近のツールを使って発信してほしい。アイデアをいろいろ出してほしい。各商店、自分たちのために。

吉田委員：高齢化による衰退というのは、理由として通用しない時代である。若手・産業の育成を確保する予算を確保するようお願いしたい。

委員長：令和5年度予算についての考えを課長に伺いたい。

まち振興課長：まずは末端で考えていただき、みんなでつくり上げていく。単年で終わらせず、最低3年計画でやっていただきたい。

割貝委員：必要に応じ補正するというのが町長の意向である。商工会に頑張ってもらいたいということ。

委員長：町から意見あるか。

まち振興課長：町も発信力まだまだ弱いので注視していく。より良い商店街を目指す。

委員長：商工会から意見あるか。

商工会事務局長：町と協力して事業を進めていくので協力願う。

委員長：商工会が統合する動きはあるか。

商工会事務局長：今のところない。郡内4町村広域連携事業を実施している。

委員長：調査を終了する。

（説明員退席）

委員長：まとめだが意見あるか。

鈴木茂委員：事務局と役員・会員との話がどれだけ進んでいるか疑問。

吉田委員：危機意識が薄い。

金澤委員：皆さんの考えと同じである。

委員長：3月定例会で、委員からの意見を盛り込んで報告したい。

委員長：報告書の期限は2月20日とする。

副委員長閉会

埴町議会委員会条例第27条の規定により署名する。

令和 年 月 日

経済常任委員長